

第5回 万葉文化館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2020年1月25日(土)10時30分～12時
- ◇会場 奈良県立万葉文化館
- ◇参加者 梶原(平城西小)、石原(平城小)、石田(左京小)、東尾(学部生)
大谷・井上(万葉文化館)、米田・北村・中澤(奈良教育大学)
- ◇内容 ESD 指導案・実践報告の相互検討会

1. みそしるを作ろう・小学6年生家庭科・東尾さん

- ・一番手間のかかるだしの取り方を体験する。
出汁入りみそ(手軽、わざわざだしを取る必要がないのではないか)
出汁のないみそしる・出汁入りみそ汁・煮だしを煮出した出汁でつくったみそ汁
- ・どの方法を自分は意図的に選択するのか
- ・だしがらを捨てるのではなく、もう一品つくる:食品ロス←さまざまな野菜くずのレシピ
- ・比較できるので教材として優れている。
食べ方の比較もある。
発展として地域のみそ、出汁、世代間の違いを調べると文化的多様性に気づかせることができる。
- ・出汁は日本の伝統食 海外と比較することで日本文化を
- ・万葉集に「ひしお」が出てくる。みそという言葉は平城京の木簡がある ただし「未醬」
- ・みそも出汁も、多様性に富んだ食材である。

※台所から世界が見える 家庭科学習はスキルだけではない、文化についての学びができる

2. 未来に伝えたい「いま」小学校6年生国語・石原先生

- 第1次:夏休みの思い出を「気持ちを表す言葉」を使わずに短歌にする
 - 第2次:万葉集を参考に、五七長で作詞する
 - 第3次:冬休みの思い出を短歌にする
 - 第4次:卒業を前に作詞する
 - ・卒業までのカウントダウンに、万葉集のスキルを用いる。序詞(じよことば)
序詞:よむひとが独自に考え出す1回限りのもの
枕詞:共通のもの
 - ・心象風景の広がりを豊かにするもの・序詞
 - ・まんだらチャート
まんなか :一番伝えたい気持ち
周囲 :真ん中に関連する自然
外周 :自然の様子を表す短文 → 詩に マインドマップからの発想
 - ・万葉集 五七調(意味の切れ目) 運動会のあとにやってみた
- 言葉のチョイスが磨かれたと感じる。
- 万葉集は五七長 五七・五七・五七でつなげていくと長歌になる
五七五七七で終わらせたのが短歌
いつもの作文を五七長に直して「マイ万葉集」づくりワークショップ

○まず五七で長歌づくりで五七に慣れさせた上で、五七七をつなげることで短歌ができる

3. 古事記のすごろくを作って遊ぼう 特別支援学級2年生・自立学習：梶原先生

- ・助詞を使うことができるようにさせたい
- ・ストーリーの順序を理解させる。
- ・昔の道具への理解を進める

「お話すごろくをつくろう」

①誰と遊ぶ？

②どの話でつくる？

③場面1の場所は？

- ・助詞を絵文字にしたり、色を変えて意識させる

文字と話し言葉は成り立ちがそもそも違う

いったん文字を離れて、「この場合はこの色のカード、この絵文字」を使うということから入っていく。

4. 郷土の「言語文化」に関する教材開発と実践的展開 中学校国語：米田先生

- ・二上山の頂上にある大津皇子のお墓
- ・教室に万葉集を

①大津皇子から紐づく万葉集歌を選択して教材化する

②大津皇子と大伯皇女のやりとりからストーリー性に気づかせる

③関連する新聞記事など集めておいたものも教材として加える

④教科書によく掲載されている万葉集歌を解釈する形で作詞に挑戦させる

5. 大谷さん・井上さんから

万葉集をもとにした作文・絵のコンクール→参加数が少ない

学校の先生方が万葉集を知らない。先生方への研修の重要性に気づかされた。

先生方への万葉集に親しみやすいテキストづくりに取り組もうと思っている。

→ 奈良市で以前つくったもののコピーはある（米田）

地域のを掘り起こして教材化することが重要になっている

副教材を作成するだけでは効果がない。研修とセットにする必要がある。

見開きで完結させることを心掛けた

